

# バブル崩壊後の学生の変容と現代学生像

～学生生活実態調査をはじめとした調査分析より～



2012年 11月5日(月)

開会 15:00～18:00 参加費：無料

会場 日比谷図書文化館  
日比谷コンベンションホール(大ホール)

## 開催に当たって

長引く経済不況のもとで仕送りやアルバイト収入の減少により学生の困窮が言われ、また厳しい就職状況などにもより様々な不安を抱える学生が増加しています。一方では大学を取り巻く環境やコミュニケーションツールの多様化により、大学生活や人間関係の築き方も大きく変化してきています。

今回、全国大学生協連では、バブル崩壊後から現在までの過去20年間を、有識者の方たちに大学生協の学生生活実態調査を始め、各種調査を分析していただくことにより、バブル期以降の学生の変化と現代の学生像を浮き彫りにしました。

今回のシンポジウムでは、その浮き彫りとなったバブル崩壊後の学生の変容と現代学生像を広く社会に知らし、加えて学生への必要な社会的支援にも触れます。

## プログラム

15:00	開会にあたって
15:10	パネルディスカッション 開始 はじめに 学生生活実態調査について 全国大学生協連
15:20	報告 1 「大学生の学生生活の概要」 武内清 (敬愛大学特任教授、上智大学名誉教授) 2 「現代大学生の学生生活の重点など」 溝上慎一 (京都大学高等教育研究開発推進センター准教授) 3 「大学生の友人関係の変化」 浅野智彦 (東京学芸大学教育学部准教授) 4 「教育費負担の所得階層別分析」 小林雅之 (東京大学大学総合教育研究センター教授) 5 「学生生活費とキャンパス文化の推移」 岩田弘三 (武藏野大学人間科学部教授) *裏面に報告者の専門、著書などを紹介しています。
16:40	質疑(会場からの質問も受け、パネラーでのディスカッション)
18:00	閉会

### ●お問い合わせ

全国大学生協連・広報調査部  
☎03-5307-1125  
E-mail gakicho@univcoop.or.jp

### ●お申し込みは

- ①左記、広報調査部まで ②裏面の申込書をFAXで
- ③ホームページ (<http://www.univcoop.or.jp/>) より  
\*満席になり次第、〆切とさせていただきます。

主催：全国大学生活協同組合連合会 後援：独立行政法人 日本学生支援機構(JASSO)



UNIV CO-OP 全国大学生活協同組合連合会

# 報告者 略歴

浅野 智彦(東京学芸大学教育学部准教授)

1964年、仙台市生まれ。アイデンティティ論、若者論を中心に研究する社会学者。著書に『自己への物語的接近』(勁草書房、2001年)、『検証・若者の変貌』(編著、勁草書房、2006年)、『若者とアイデンティティ』(編著、日本図書センター、2009年)、『趣味からはじまる社会参加』(岩波書店、2011年)、『若者の現在 文化』(共編著、日本図書センター、2012年)など。現在の研究テーマは、(1) アイデンティティの多元化が若者の社会参加にどのような関わりをもつかを実証的に検討すること、(2) 若者の親密な関係が公共的な領域への参加とどのように関わっているのかを実証的に検討すること。

武内 清(敬愛大学特任教授、上智大学名誉教授)

1944年千葉県生まれ。専攻は教育社会学で、学校文化、生徒文化、学生文化を中心に研究すすめている。児童・生徒・学生に対する意識調査に多く関わってきた。現在、日本子ども社会学会会長。論文では「学生文化の実態と大学教育」(高等教育研究11集)、「学生の視点からの学士課程教育」(IDE,498号)、編著では『キャンパスライフの今』(玉川大学出版部)、『大学とキャンパスライフ』(上智大学出版)、『子ども・若者の文化と教育』(放送大学教育振興会)、『子どもと学校』(学文社)などがある。子ども・学校研究をすすめると同時に、高等教育の分野では、学生の実態から大学教育や学生支援のあり方を考えている。

溝上 慎一(京都大学高等教育研究開発推進センター准教授)

1970年福岡県生まれ。専門は青年心理学(自己形成論、現代青年期論)と高等教育(大学生の学びと成長、学校から仕事へのトランジション)。著書に「自己形成の心理学ー他者の森をかけ抜けて自己になる」(単著、世界思想社、2008年)、「現代青年期の心理学ー適応から自己形成の時代へー」(単著、有斐閣選書、2010年)、「大学生の学び・入門ー大学での勉強は役に立つ!」(単著、有斐閣アルマ、2006年)など多数。現在おこなっている研究は、(1)自己形成と自己発達との差異に関する実証的検討ー自己形成モードの提起、(2)多数的自己と分権的自己観、(3)青年期から成人期前期にかけてのアイデンティティ・ライズン研究、(4)高校生から社会人へのトランジション・パネル調査など。

小林 雅之(東京大学大学総合教育研究センター教授)

1953年静岡県生まれ。専門は教育社会学・高等教育論。とくに教育費の負担や授業料・奨学金問題に国際比較と実証分析により取り組んでいる。また、大学ランキングや大学ベンチマークなどの問題にも、大学評価や質保証の観点から取り組んでいる。現在、日本学生支援機構政策企画委員会委員、文部科学省中央教育審議会専門委員。著書に、『教育改革への挑戦ー授業料・奨学金の8力国比較』2012年 東信堂、『大学進学の機会』2009年 東京大学出版会、『進学格差』2008年 ちくま新書、『教育の政治経済学』(共著) 2000年 放送大学教育振興会など。

岩田 弘三(武蔵野大学人間科学部教授)

1957年 富山県生まれ。専門は教育社会学・高等教育論。とくに実証的数据をもとに、キャンパス文化の戦後史、および現代的問題としては学生支援の問題の分析に取り組んでいる。また、大学教授職の歴史的分析にも、取り組んできた。代表的な著書は、①『近代日本の大学教授職』玉川大学出版部、2011年、②『教育文化を学ぶ人のために』世界思想社(共著)、2011年、③『大学とキャンパスライフ』上智大学出版、2005年(共著)、④『キャンパスライフの今』玉川大学出版部、2003年(共著)など。

## シンポジウム

## バブル崩壊後の学生の変容と現代学生像

### 申込書

送信先 FAX 03-5307-1180

送信先 アドレス [gakicho@univcoop.or.jp](mailto:gakicho@univcoop.or.jp)

参加費:無料

お名前	
ご連絡先	TEL
	E-mail
大学名あるいは団体名	※記入は任意です。もちろん個人での参加も大歓迎です。